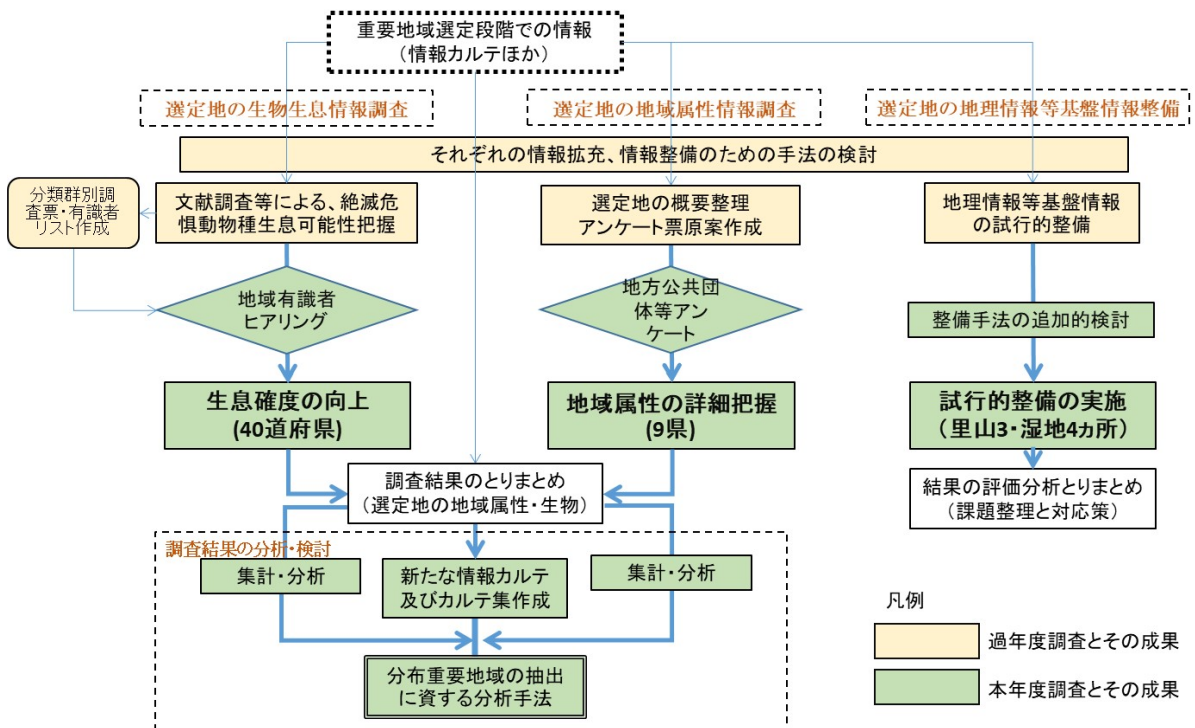


令和2年度 重要里地里山及び重要湿地における絶滅危惧種分布情報調査等業務

- メッツ研究所では、環境省からの受託で、環境省が選定した「生物多様性保全上重要な里地里山」（以下；重要里地里山）や「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（以下；重要湿地）の各選定地における情報拡充業務を実施した。具体的には、将来的な保全活動主体への有益な情報提供や、新たな保全施策の展開に向けた知見を得ることを目指して、各選定地における絶滅危惧種の生息情報や、各選定地の保全活動の状況等の場の情報の調査を実施した。令和2年度の業務は以下の通り。

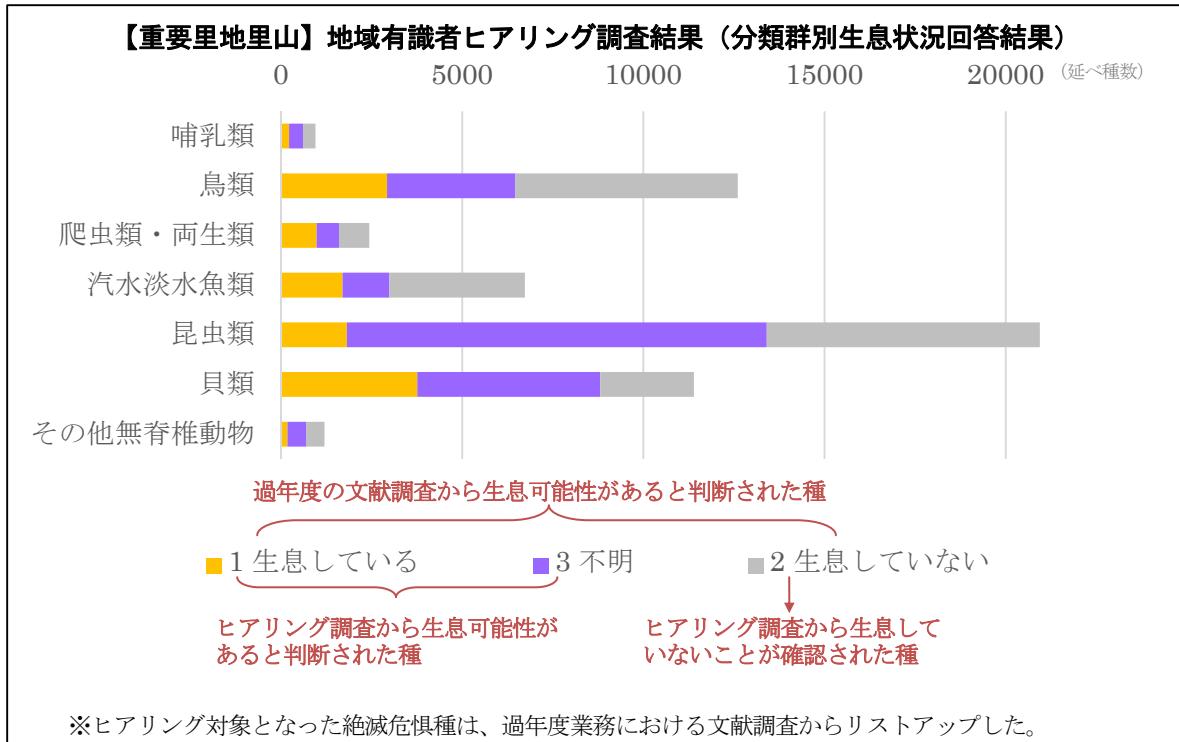
■業務の内容

- ①絶滅危惧種の生息情報について、調査対象選定地（重要里地里山：関東地方の選定地を除く419箇所、重要湿地：関東地方及び海域の選定地を除く428箇所）において、環境省や各都道府県のレッドデータブック等の文献資料を整理した上で、**分類群別の地域有識者（約280名）を対象としたヒアリング調査**を実施した。
- ②各選定地の場の情報について、中国・四国地方の各選定地（重要里地里山：84箇所、重要湿地：海域の選定地を除く53箇所）を対象に、**各選定地が位置する市町村を対象としたアンケート調査**を実施した。
- ③①・②の調査によって取得した生息情報と場の情報について、**選定地毎に情報カルテとして取りまとめ**を行った。
- ④加えて、選定地における地理情報等の基盤情報について、GISを活用した複数の整備手法の検討を行い、**一部の選定地を対象に試行的に整備**することで、各整備手法の評価を行った。

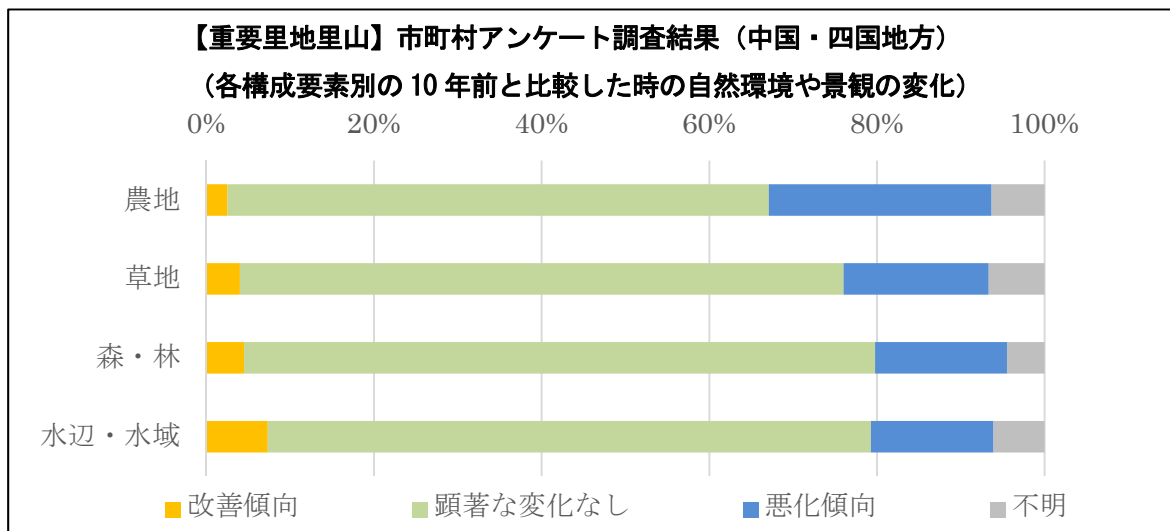


■主な成果

- ①地域有識者へのヒアリング調査では、選定地×絶滅危惧種の合計で、重要里地里山では約 56,000 件、重要湿地では約 62,000 件の生息情報を取得し、分類群別や選定地の立地特性格別の生息状況の傾向を分析することが可能となった。



- ②中国・四国地方の各市町村へのアンケート調査では、各選定地の自然構成要素毎の変化状況（改善一悪化）や、各選定地で実施されている保全活動とその参画主体などの場の情報を把握することができ、新たな保全施策を検討する上で基盤となる情報を整理することが出来た。



※将来的な全国同一精度による生物分布情報の把握のために、今後、調査手法の面でもカバーエリア（対象地域）の面でもさらなる拡充が望まれる。